若手医師リレーエッセイ
Spirits
スピリッツ

病理診断科志望、内科研修にて

釧路労災病院　初期研修医
岸浪（きしなみ）　建（たける）

旭川市出身。旭川東高校、北海道大学を卒業し、現在は釧路労災病院研修医１年目です。趣味は硬式テニス、登山です。大学時代は東洋医学研究会に所属していました。10年以上のスピッツファンで、写真は聖地の１つである帯広市の旧双葉幼稚園園舎です。

はじめまして。釧路労災病院初期研修医１年目の岸浪建と申します。この度は医学生時代のサークル仲間にして６年間最大の勉強仲間であった、北海道医療センターの真島慧太先生よりご紹介をいただきました。真島先生は、真摯に相談にのってくれる、年齢に関わらず人間関係構築に長けているといったような、人として素敵なところが数多くあり、非常に友人からの信頼が厚い人物です。そんな彼からこのような執筆機会をいただけたのはとても嬉しいです。そういえば、彼はミステリー小説をはじめとして結構な数の本を読んでいる大の読書家、故に書く文章も綺麗だったことを思い出します。その後の寄稿ということで見劣りしそうですが、精一杯書かせていただきます。

私は現在病理診断科を志望しており、研修医としての業務の間に病理検査室へ赴き、診断について勉強させていただいています。そこで病理診断科志望の研修医としてこの病院でよかったということをテーマとしました。

はじめに、釧路労災病院（以後当院）との出会いについて書きます。とある説明会で出会った当院の先生に半ば強制的に見学の日程を取り付けられ、６年生８月下旬に見学へ伺いました。見学前に病院で出迎えてくださったのが、副院長の宮城島先生でした。「Dr. ミヤタクの研修医養成ギプス（金芳堂）」を執筆されており、研修医教育に非常に熱心な先生です。この日も学生である私に研修について熱意をこめて教えてくださいました。研修医が活発に働く様子、医療スタッフ間の雰囲気のよさなど他にも色々な要素はありましたが、何より「この病院なら成長できそうだ」という考えがあり、マッチング登録をしました。

半年に及ぶ内科研修は刺激的な経験の数々でした。上記書籍にて文章という形で理解していた教えの一つ一つを、臨床研修という経験を交えて再度ご指導いただいた際の説得力は何もかも凄まじいものでした。

数多くのご指導の中で、特に印象に残っている経験がICの記録をとるという業務でした。当院はがん拠点病院であり、告知をしなければならない場面も数多くあるのですが、悪い知らせの適切な伝え方、それを受けた患者および患者家族への寄り添い方などICで交わされる対話について深く学びました。手術適応のない進行胃癌患者さんのIC記録をとる機会がありました。先生が毅然として事実を伝えた後、ご本人、奥様共々、悲嘆や後悔を口にして言葉が形を成さないほどに泣かれていました。先生はその様子にある時は沈黙し、ある時は優しい言葉でなだめ、すこしずつ前向きにさせ治療の説明を聞いてもらい、ICを無事終えたのでした。その一連の様子には目を見張りました。ICの技術もさることながら、病理診断医がつけた診断をもとに、臨床の先生方が患者および患者家族と事実を通じて関係を構築する一連の流れ、およびその多大な責任の一端を病理診断医が担っていることを知ることができたことも大きな経験でした。

ICの中でも、とりわけ亡くなった直後の病理解剖の依頼について大変苦労されているというお話を数多くの先生から伺いました。ご遺族の方の感情を考えると至極当然のことです。宮城島先生は、長時間の治療期間の中で信頼関係を築き続けてはじめて承諾をいただけるとその難しさに同意されていました。その多大な苦労の末に病理解剖があるということも忘れてはならないことだと感じました。

主体的に関わらせていただいた様々な経験を通して、病理診断科が臨床科に必要とされていること、ならびに常に隣にいなければならないことを強く実感することができた点で、当院の研修医でよかったと４月からのこの期間を振り返っています。

病理診断科は主患を持たないという特性があります。主患をもたない、直接患者さんと関わっていないから、責任が軽いだろうという心無いことをおっしゃる先生も見てきました。専門医でも専攻医でもない私が意見する資格はありませんが、半年間指導医の隣で患者さんを診てきた今なら、病理医は患者さんの現在と未来を決定づける重大な責任を伴っているということが分かります。将来その立場になった際には、「姿の見えないIC同席者」という気持ちを持って仕事に携わりたい心持です。文字面だけ見ると幽霊みたいですね。とはいえまだまだ研修医、この後運命の出会いがあって志望科が変わるかもしれませんから、あまり仰々しいことを言ってはいけませんでした。少なくとも今は、受け持ちの患者さんについて診断をつけてくださった病理診断科の先生に最大の敬意を払って、患者さんの現在を捉えつつ未来を一緒に考えていくことを大事な仕事の一つにして、残りの研修生活も精進してまいります。新年早々、お堅い人間のつまらない文章を最後まで読んでいただいてありがとうございました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。